

な関連を持たせて指導に生かしていけばよいのか、検討していく必要がある。

○ 児童の興味や関心といったこだわりに基づく指導のほかに、一人一人の個性を生かし育てていく様々な指導のあり方について、研究領域を広げていく必要がある。

以上の三点を今後の課題とし、模索していきたい。

（なお、齋藤先生は平成元年四月より川俣町立川俣中学校勤務）

## 文学的教材を創造的に読み進めるための授業実践

いわき市立高坂小学校  
教諭 金成邦寛

### 一、実践研究の趣旨

学習指導要領の二年生の理解の領域の中に、「ウ 人物の性格や場面の様子を想像しながら読むこと」という事項がある。この事項は、文学的教材の読みを通して身に付けなければならぬ基礎的な能力である。この能力が十分に培われないと、児童たちの「読み」が深まりのならないものなる恐れがある。

国語科の学習は、言葉を聞く、話す、読む、書く活動が教育活動そのものであり、それを通して、学年に応じた国

資料1 指導順序案

指導順序	学習事項	到達目標	学習活動例	ことば	評価	
					観点	価値
1時	読み	全文を通読し、ほうしが行くえをえることができる。(理)	(1) 題とさし絵から内容を予想し全文を読む。 ○題とさし絵から、物語の内容を予想する。 ○全文を通読する。 ○ほうしの行くえをノートにまとめる。 ○新出漢字・読みかえ漢字・難語句について学習する。	新出漢字 8字 読みかえ漢字 7字	えっちゃんのだへうしだけれわたつたか分かったか。	ノート
2時	読み取り		(省)			
3時		えっちゃんときつねの関係をとおさえて読み取る。(理・言)	(3) 第3の場面のえっちゃんときつねの様子を調べる。 ○第3の場面を音読する。 ○えっちゃんときつねについて読み取る。 ○不思議な出来事について話し合う。 ○漢字・語句の練習をする。	ふりむく 答える へん	きつねのとほへうしとえっちゃんを調べる。えっちゃんときつねの関係をとおさえて読み取る。えっちゃんときつねの関係をとおさえて読み取る。	ノート 形成的テスト
4時		ほうしがおくけるほうしをいけるほうしに気づく。(理)	(4) 第4の場面のえっちゃんときつねの様子を調べる。 ○第4の場面を音読する。 ○えっちゃんたちについて話し合う。 ○にているところ、ちがいをまとめる。	まぶしい 見合わせる。	第3・4の場面の同じところを調べる。	ワークシート 形成的テスト
5時		大男の恐い様子を調べる。(理)	(5) 第5の場面の大男とえっちゃんの様子を調べる。 ○第5の場面を音読する。 ○大男ときつね、えっちゃんの様子を調べる。	ながめる 見下ろす つぶやく	大男を表した言葉や会話から、大男の恐いさが読み取れたか。	ノート 形成的テスト
6時		えっちゃん、きつね、大男の性格をとらえることができる。(理)	(6) 第6の場面を音読し、えっちゃん、きつね、大男の性格を想像する。	ゆげ	それぞれの性格をノートにまとめたか。	ノート 形成的テスト
7・8時	感想	あらすじをまとめることができる。	(7) 主題について考え感想を話し合う。 ○全文を音読する。 ○絵を見ながら、粗筋をまとめて発表し合う。 ○人物の性格について復習する。 ○好きなところ、おもしろく感じたところなど、感想を話し合う。		教材文を読んだ感想をまとめたか。(主題) 粗筋を原稿用紙2枚にまとめたか。	ノート プリント
9時	手紙を書く	えっちゃんへの手紙を書く。(理・言) 友達の話の終わりがまよく聞く。(理)	(8) えっちゃんへの手紙を書く、発表する。 ○えっちゃんへの手紙を書く。 ○えっちゃんへの手紙を発表する。		えっちゃんへの手紙が書けたか。友達の手紙をよみてくれたか。	手紙 観察
10時	練習		(省)			
11時		評価と補充・深化指導	08 単元末の評価問題を解く。 09 評価に基づき、補充・深化指導をする			

語の諸能力を身に付けることが目的でもある。「何が書かれているか」を重視し過ぎると教材の優位性が強調され、児童たちの主体的な「読み」が弱くなりがちである。そこで、児童たちが教材と対等の位置に立ち、文学的教材を主体的に読み進めていくためには、「いかに書かれているか」という側面の学習を採り入れ、児童たちが文学的教材を創造的に読み進めていくことが大切であると考えた。

### 二、研究の仮説と方法

- (一) 仮説
- 「いかに書かれているか」の側面の「読み」を指導過程の中に生かす。
  - 形成的評価の機能を十分に生かす基礎的な「読みの累積」を保障する。
- 以上の事柄を実践することによって児童たちは、文学的教材を叙述に即して創造的に読み進めることができるのではなからうか。

- (二) 研究の方法
- 教材研究
  - 単元の指導で教師の「読み」が、児童たちの「読み」を大きく包み込める

ように配慮し、研究を進めた。

- 目標分析表、目標構造図、指導順路案の作成
  - 前提条件テストの実施と考察
  - 文学的教材の学習の意識調査
  - 初発の感想における「読み」の深淺の分類表の作成
  - 目標分析表、目標構造図、指導順路案の修正(資料1参照)
- (2) 指導の重点化
- 児童たちの実態に即して指導の重点化を図り、次の五つの能力の育成に努めることにした。